

2022年3月18日

豊田工業大学 学長 保立 和夫

豊田工業大学 卒業式・修了式 学長告辞

本日、豊田工業大学から学士あるいは修士の学位を授与された皆さんに、心からお祝いを申しあげます。そして、ご家族の皆さま、おめでとうございます。本年度、学部を卒業される皆さんは 89 名、修士課程を修了される皆さんは 46 名であり、博士課程では、2 名の方々が学位を授与されておられます。

皆さんは、本学において、深い理解を体系的に獲得し、独創的な研究成果を生み出すために、努力してこられました。ご努力の成果が見えたとき、嬉しい気持ちになられたことでしょうか。困難な場面にも遭遇されたと思います。皆さんはそれらを克服なさり、この晴れやかな式に臨んでおられます。これまでのご努力に敬意を表します。本学でのご経験は皆さんの自信へと進化しています。

皆さんの学生生活を振り返ってみますと、この 2 年間は新型コロナウイルス感染症により、普段と異なる状況下での活動でした。一昨年 3 月末からは第 1 波に襲われ、緊急事態宣言が発せられ、学修も研究も、全てがオンラインとなりました。しかし、宣言解除後には、博士研究員の皆さんから研究室に戻って来て頂き、当時修士 1 年の皆さんも、8 月初旬には研究を再開して頂きました。学部 3 年までの皆さんが、登校曜日制限の下で、キャンパスに戻って来られたのは、11 月になってからでした。大変にご不自由をお掛けしてしまいました。

本年度には、当初から、学内の罹患対策を徹底し、前期・後期ともに、全授業を対面で実施できました。各教室には対面と遠隔を並走できる「ハイフレックス講義」用機器を完備し、緊急事態宣言下では、皆さんが対面と遠隔を選択できるように致しました。実験・実習科目については、緊急事態宣言下でも、対面にて実施できました。オミクロン変異の為に、本学でも感染される方々が増えざるを得ませんでした。それでも症状は軽くて済み、安堵しております。

この間の、学生の皆さん、ならびに教職員の皆さんのご努力とご協力に、深く感謝申し上げる次第です。

さて、本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として 1981 年に開学し、以来、関連企業の皆様方からのご支援に支えられつつ、本務である教育と研究において、自由で闊達な活動を展開して参りました。一昨年夏には、7 年を掛けたキャンパスリニューアルも完了し、教育と研究のファシリティが刷新されています。ご関連の皆様方からのご支援とご鞭撻に、感謝申し上げます。

本年度は、開学 40 周年を記念する 1 年でした。ここ豊田喜一郎記念ホールを

起点に記念オンライン講演会を開催し、愛知県立芸術大学の大学院生の皆さんによる弦楽四重奏を、電子残響装置を稼働させて実施致しました。歩みを振り返るポスター展をダ・ビンチ広場で行い、研究センターの活動報告をオンライン連続シンポジウムフェアとして開催するなど、記念イベントも実施できました。同窓会の皆さんには置時計をご寄贈頂き、「障子ラウンジ」に設置致しました。

感染症蔓延下にも拘わらず、40周年記念の年に、新キャンパスの施設と設備を学生の皆さん全員に活用して頂くことができたこと、嬉しく思っております。

本学には、40年の教育・研究活動を通し、分野横断型教育、実験・実習、学部から博士に至る教養教育、企業や海外でのインターン、海外語学研修や海外姉妹校・提携校との連携など、特徴ある教育・研究スキームが蓄積されています。新キャンパスでは、教育・研究施設、コミュニケーション空間、学生寮と国際交流ハウス、クリーンルームと創造性開発工房などが、刷新されています。

学長に就任する際、本学をさらに活力ある大学とするには、何を行うべきかを考えました。本学には、特徴ある充実した教育・研究スキームと環境が整っています。そこで、次は、「学修」「研究」へ取り組む「意識」を、学生の皆さんとご一緒に磨き上げてゆくことが重要であると考えに至りました。そして、「自ら論理的に考える人になって欲しい」と、繰り返し申してきた訳です。

重要なポイントは、「学修」「研究」は大学での「人材育成」機能を駆動する「両輪」であるという認識です。「40周年記念ロゴ」に込めたように、学生の皆さんが「深い理解」を得るには「帰結に対応した「理由」に納得するまで考える」学修方法が必要で、付随して身に着く「論理的思考力」は研究力を育みます。研究でも同じ態度が必要で、「論理的思考力」はより鍛えられて社会での活躍に重要な「汎用力」へと進化し、自律した社会人となる皆さんを支えます。

現在、本学では、「将来の姿」をどう描くかという検討が進んでいます。その要点の中に、学生の皆さんの「学修法」「研究法」の工夫があり、教員の皆さんの「学修指導演」「研究指導演」の工夫があります。専門分野に関する「学修」「研究」活動に「付随して身に着く汎用力」には、「論理的思考力」の他に、「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」や「協働力」などもあります。ただし、これら「汎用力」の獲得には、学修などの「方法」を工夫することが必須です。たとえば、「ただ記憶する」という「学修法」では全く機能しない、という意味です。本学の次世代文明センターが開催した先日のシンポジウムでも、この「付随して身に着く汎用力」の重要性が話題になっています。

コミュニケーションで重要なポイントに、「理由」を如何に上手く提示できるかがあります。論理的に話せば分かり易いのでしょうから、ここでも「理由」の提示が重要なことが分かるでしょう。つまり、「プレゼンテーション」でも「協働」でも、「理由」を上手に伝える力が大切です。「理由」も述べずにただ「や

りなさい」では、気持ちは伝わりません。この当たり前のことができていないために、上手く機能しない「組織」も、「人間関係」も、あるのでしょうか。

本学での「学修」と「研究」で、「帰結に対応した「理由」に納得するまで考えた」回数に対応して、皆さんには種々の「汎用力」も着いているのです。時々、「専門××」という言葉を目にします。しかし、「学修」「研究」において、上述した態度に拘った方々は、決して「専門××」にはなれません。

さて、次世代文明センターのシンポジウムでは、「教養」とは何かという話題もありました。世界には星の数を超える知識があります。つまり、「知識の量」は教養を表さないでしょう。そこで、教養は「恕：思いやり」とか「品：品位」ではないですか、と回答しました。勿論、「言うは易く行うは難し」ですけれど。

今日、世界では非常に悲しい事態が起きています。一日も早い平和を願わずには居られません。「民主主義の死に方：二極化する政治が招く独裁への道」という本があります。米国ハーバード大学の2人の教授の著作で、2018年9月に翻訳版が出ています。著者は、「今日の民主主義の後退は選挙によって始まる」と記しています。また、民主主義が上手く機能するのは、「憲法が、成文化されていない民主主義の規範によって支えられているとき」とも述べており、規範とは、競い合う政党同士の「相互的寛容」と政治家の「自制心」の二つである、としています。「寛容」と「自制心」が民主主義を守る、ということです。この二つの言葉、教養に対応して浮かんできた「恕」と「品」に通じるように思います。

「学修」と「研究」へ取り組む態度に拘って頂きたいと申ししてきたのは、学生の皆さんには、工学分野での「専門力」を鍛えるだけではなく、社会人として社会を維持しこれに貢献するための種々の「汎用力」も、しっかりと培って欲しいと願っているからです。持続可能な社会の実現にも、民主主義の維持と成長にも、本学の卒業・修了生の皆さんのご活躍が必要であるからです。

本日ご卒業・ご修了になられる皆さんは、どんな「漢字」をご自身の基軸に選ばれて、これから生きてゆこうと思われませんか。この節目の日を機に、お考えになってみては如何でしょうか。

豊田工業大学の「山椒は小粒でもピリ辛い」存在感を、さらに高めてゆきたいと思っています。ご卒業・ご修了になられる皆さんのうち、本学の大学院に進学される方々には、是非、「ピリ辛い存在感」の向上に、引き続き、ご協力頂きたいと思います。社会でご活躍になられる皆さんには、加えて、本学の活動への応援団になって頂きたいと思います。宜しくお願い致します。

あらためまして、ご卒業・ご修了、おめでとうございます。